

# 鴨川ふるさと会だより

— 第22号 —

鴨川ふるさと会発行

事務局：〒296-8601 千葉県鴨川市横渚1450番地（鴨川市役所経営企画部まちづくり推進課内） TEL：04-7093-7828

## 令和元年度 定期総会を開催します

議事終了後には、亀田郁夫市長（市執行部）との  
市政懇談会やふるさとセミナー、懇親会を併催

### 令和元年度 鴨川ふるさと会 定期総会等のご案内

- 日時 令和元年8月4日(日)  
13:00～17:00(予定)
  - 場所 TKPスター貸会議室 茅場町  
カンファレンスルーム7C 他  
(東京メトロ茅場町駅 9番出口徒歩2分)  
東京都中央区日本橋茅場町1-6-10  
電話 03-4577-9240
  - 内容 ◇定期総会  
◇市政概要説明  
市執行部との懇談会  
◇ふるさとセミナー  
◇会員及び市執行部との懇親会
  - 会費 会 員 4,000円  
会員家族 2,500円
- ※懇親会に参加されない方は無料です。  
※詳細は、同封の総会案内をご覧ください。  
※内容については、変更となる場合がございます。予めご了承ください。

鴨川ふるさと会の令和元年度定期総会を、8月4日(日)午後1時から、TKPスター貸会議室茅場町で開催します。総会では、平成30年度事業報告や決算報告、令和元年度事業計画案や予算案などについてご審議いただきます。議事終了後には、皆様のご意見・ご提言を市政に届けるため、市執行部をお招きし、鴨川のまちづくりについて会員の皆様と懇談する、市政懇談会を開催します。どうぞ、ふるさと鴨川の発展のために、皆様がお持ちのご意見やアイデアをご提言ください。市政懇談会終了後には、鴨川市生涯学習課職員を招いて、主基齋田をテーマにふるさとセミナーを開催します。

また、セミナー終了後には、会員の皆様に交流を深めていただくため、懇親会の場を設けます。気の許せる同郷の仲間と、ふるさと鴨川の今昔について語り合うひと時をお過ごしください。当日は、ご家族等お誘い合わせの上、皆様、ぜひご出席ください。※出欠については、この会報に同封の出欠票にて、事務局へご回答ください。会場準備の都合上、7月24日(水)までに返信くださるようお願いいたします。



昨年度総会

### ふるさとセミナー 主基齋田

市政懇談会後のふるさとセミナーでは主基齋田をテーマに取り上げます。

齋田とは、天皇一代で一度限りの、極めて重要な儀式である大嘗祭にお供えするため、米を収穫する水田を指します。明治4年に行われ、選定された齋田は、現在の甲府市となる甲斐国巨摩郡が悠紀齋田、そして安房国長狭郡が主基齋田の二か所です。収穫と式典が行なわれた跡地が大正4年に整備され、できたのが主基齋田址公園です。村の名称も「主基村」となりました。現在も、公園付近の田から収穫した初穂と、新米で醸造した神酒が明治神宮に奉納されています。

この機会にふるさと鴨川の歴史に触れてみてはいかがでしょうか。



主基齋田址公園

## 鴨川市史に携わって

高林 直樹

私は昭和26年に吉尾村で生まれました。生家の周囲は農村で、のんびりとした雰囲気でした。町の人からは、在の子という意味で「ぜいご」と呼ばれたこともあります。楽しみといえば、父に連れられて鴨川駅に、蒸気機関車やジーゼルカー（気動車）を見に行くことでした。写真は後ろ姿ですが、昭和29年3月に撮った2歳のときのもので、鉄道好きはこのころから始まっていたようです。



昭和29年3月の安房鴨川駅

父は長狭高の数学の教員をしておりました。私は大学を出ると、高校の社会科の教員になり、県の北西部の高校に勤めました。したがって、18歳で故郷を出てからは、たまの休みにしか帰ることはありませんでした。20歳のころ

は時間があると、北海道から九州まで、夜行を使いながら安上がりの鉄道の旅をしておりました。

そうこうしているうちに、

鴨川市史をやってみないかという誘いを受けました。30歳代半ばのころです。それまで、地域史関係の本などに駄文を書いていたのが目に留まったようです。こうして十数年ぶりに、故郷との関係を取り戻すことになりました。鴨川市史では『通史編』（平成8年）

や、通史をわかりやすく叙述した『読本編』（平成10年）の、いずれも明治以降の近現代史部分を担当しました。その後は、鴨川市を構成する旧12町村のそれぞれの歴史を、『大山のあゆみ』（平成14年）など「あゆみシリーズ」として刊行してきました。ここでも近現代史部分を担当しています。本年中に11番目の『西条のあゆみ』が刊行される予定で、残りは『主基のあゆみ』だけとなります（現在、執筆中です）。

今まで執筆してきた鴨川地域の旧12町村から、私が興味・関心を持った明治以降の人物を、旧町村ごとに一人ずつ挙げてみます。

江見町は真田沖合です。真田は船の先頭に立って魚の群

れをいち早く発見し、行く先の水が魚に化けるとまでいわれ、知事表彰も受けました。大正12年に77歳で亡くなりました。

太海村は鈴木松五郎です。太海村長もしていた鈴木は明治41年、移住漁業村の朝鮮千葉村の監督になりました。同村の運営に尽力しましたが、彼の地で何者かに殺害されています。

曾呂村は水田三喜男です。昭和31年に通産大臣に就任したのを皮切りに、大蔵大臣に昭和35、41、46年に就任し、通算5年蔵相を務め、経済の高度成長を牽引しました。

大山村は安田勲です。民権運動に参加し、明治23年の第1回衆議院選挙に当選し、以降9回の当選を重ねます。長狭3村は「政治の大山、学問の吉尾、産業の主基」と言われます。

吉尾村は古泉千樫です。吉尾や田原の小学校に奉職後に上京し、アララギ派の歌人として活躍しました。昭和2年に42歳で死去、『屋上の土』『青牛集』などの歌集があります。

主基村は川名伝です。大正5年から昭和15年まで村長を務め、農作物の増収や産業組合の育成を図り、主基村を全国に知られる模範村に育てま

した。農繁期の就業や休憩等の時間には全村に響くサイレンを鳴らしました。このサイレンは昭和30年代まで続きます。

田原村は別所武三です。旧花房藩士で明治7年に教員になり、その後田原小学校長になるなど、大正6年に66歳で退くまで44年にわたり田原の二千有余人を教育しました。

鴨川町は畠山勇子です。明治24年に大津でロシア皇太子が斬りつけられた事件に際し、この国難に命をささげるとして京都府庁舎前でカミソリで自刃しました。26歳でした。

西条村は長谷川昂です。東京湾観音像の原型の制作など、現代日本を代表する彫刻家です。鴨川市内には多くのブロンズ像が寄贈されています。平成24年に102歳で亡くなりました。

東条村は戸坂清次です。昭和6年に村長、11年に県会議員になりました。終戦直後の昭和20年11月に、51歳で地方自治法施行前の最後の県会議長になりました。

天津町は四宮喜三郎です。明治22年の天津町誕生にあたり37歳で初代町長となりました。千葉県水産界の大立者で、若くして明治20年に県の水産主務に就いています。大正3

年には町長経験者にもかかわらず、請われて町助役に就任しました。

小湊町は沼野玄昌です。蘭学を学んだ医師で、明治10年に貝渚村でコレラ患者を治療中に、コレラ毒を広めていると誤解した住民によつて殺害されました。42歳でした。弔魂碑が加茂川河口の汐留公園にあります。

以上、縷々述べてきました。が、県内の地理・歴史を紹介したものの、また、鉄道好きが高じたものとして次の著作がありますのでご一読いただければ幸いです。出版社はいずれも実業之日本社です。

『千葉「地理・地名・地図」の謎』（平成26年）、『京成沿線の不思議と謎』（平成29年）

### ◆ご寄稿者プロフィール◆

高林 直樹（たかばやし なおき）氏  
1951年吉尾村に生まれる。現在は松戸市に在住。  
大学では地理を専攻。卒業後は千葉県内の高校教諭、千葉県史料研究財団事業第1課長、公立高校長を経て、聖徳大学 AO 入試研究センター教授を務めた。この傍ら、千葉県史、千葉県議会史、鴨川市史をはじめ県内の市町村史等の執筆に従事。  
主な著書

『千葉県地名大辞典』（共著、角川出版1984）

『千葉県の百年』（共著、山川出版1990）



# オルカ鴨川FC トピックス

## ▼オルカ鴨川FC近況

1部昇格に向けて好発進  
なでしこリーグ2部に昇格  
してから今シーズンで3年目  
を迎えたオルカ鴨川FCは、  
前期のリーグ戦9試合を終え  
て6勝2分1敗。1部昇格圏  
内の2位で折り返しました。



近賀選手

今季、オルカの好調な要因  
のひとつとして挙げられるの  
が、なんとと言っても失点の少  
なさです。昨季の前期終了時  
は失点16で2部10チーム中、  
ワースト1位でしたが、今季  
はここまで失点3とリーグ最  
少失点。昨季と打って変わっ  
て守備力が強化されたことが  
前期オルカが飛躍した大きな  
要因といえます。そのオルカ



の守備を中心的に支えている  
のが、今シーズン新加入した  
近賀ゆかり選手です。近賀選  
手は過去に日本代表で活躍し、  
2004年のFIFA女子  
ワールドカップ初優勝に貢献  
ワールドカップは3回連続出  
場しています。また、ロンド  
ンオリンピックでも、なでし  
こジャパンの一員として活躍  
し、銀メダル獲得に大きく貢  
献。日本代表通算100試合  
出場を果たしています。  
リーグ戦は残り9試合。後  
期は9月1日から再開されま  
す。引き続き応援よろしくお  
願い致します。

## ▼小嶋星良選手

U-19日本女子代表フランス  
遠征メンバーに選出

小嶋選手が5月5日から5  
月21日までの期間、フランス  
で開催された「SUDD La  
dies Cap」に日本代  
表として出場し、2位で大会  
を終えました。試合は5試合  
行われ、うち小嶋選手は4試  
合に出場。2戦目のガボン女  
子代表との試合では1ゴール  
を決めチームの勝利に貢献し  
ました。U-19女子日本代表  
は10月にタイで「AFC U-  
19女子選手権」も控えており、  
小嶋選手は村岡選手に続く日  
本代表選手として期待されて  
います。



小嶋選手

## 鴨川市

### 納涼花火

7月29日(月)午後7時30  
分から8時20分まで、「日本  
の渚百選」に選定されている  
前原横渚海岸を会場として、  
「鴨川市納涼花火 鴨川大会」  
が開催されます。

今年も昨年同様に、一万発  
を打ち上げる予定で、スター  
マインや水中花火などが鴨川  
の夜を彩ります。

当日は、ビートたけしが命  
名したバンド「ジュリアナの  
祟り」改め「エナツの祟り」  
のステージや、フラダンスイ  
ベントも予定されておりま  
す。プロムナード特設会場では、  
特別観覧席(有料)の他、地  
元飲食店が集まるおらが商店  
街が20店舗以上軒を連ね、鴨  
川のうまいもんが大集合しま  
す。

また、8月16日(金)午後  
8時から8時30分まで、小湊  
漁港を会場として、「鴨川市



鴨川大会  
小湊大会

納涼花火 小湊大会」が開催  
されます。

趣向をこらした色鮮やかな  
花火をどうぞご覧ください。  
※荒天の場合は、順延とな  
ります。当日は、駐車場に限  
りがあり、会場周辺は大変混  
み合いますので、できるだけ  
公共交通機関をご利用くださ  
い。

※お問い合わせ 鴨川市観光  
協会 ☎04-7092・0  
086



### 新規会員を 募集しています!

本会では、年間を通して新規会員を  
募集しています。今回、会報発送に併  
せて、会員募集チラシを同封させてい  
ただきました。

会員の皆様のお知り合いの方で、鴨  
川出身の方や鴨川にゆかりがあり応  
援したいという方へお配り頂くなど、  
会員の募集にぜひご協力ください。

# 鴨川市ふるさと回帰支援センター 田舎暮らしを支援します！

定住人口の増加を目指す本市では、「米や野菜づくりをはじめてみたい」、「自然が豊富な田舎で暮らしたい」と希望する都市住民を積極的に支援しています。

その移住定住の相談窓口となる『鴨川市ふるさと回帰支援センター』では、相談者の理想のライフスタイルや移住に関する不安などを伺い「移住するまで」と「移住してから」のライフプランの構築支援をしていくほか、いきいき帰農者セミナーの開催、空き家見学などを実施しています。



移住相談会での相談の様子

## ▼いきいき帰農者セミナー

「いきいき帰農者セミナー」は、市民や先輩移住者と一緒に野菜栽培の基礎を学びながら、移住に必要な『地域とのつながり』を作る場ともなっており、鴨川市ふるさと回帰支援センターの特徴的な取組

でもあります。

このセミナーは、ここ数年、多くの参加者で賑わっており、昨年度は19回開催し、延べ464名の方に参加いただいたところです。

今年度は20回の開催を予定しています。参加できる回のみ参加も可能です。  
「参加費」 1回につき1人1,000円（※初回は無料）  
「場所」 里のMUJIみんなみの里ほか  
「時間」 午前9時30分

### ＜開催日程＞

- 7月 5日(金)、20日(土)
- 8月 3日(土)、30日(金)
- 9月14日(土)、28日(土)
- 10月11日(金)、26日(土)
- 11月 8日(金)、30日(土)
- 12月13日(金)
- 1月25日(土)
- 2月 7日(金)、22日(土)
- 3月14日(土)



いきいき帰農者セミナーの様子

ら午後4時頃まで  
「その他」 収穫した野菜などは、お土産になります。

▼移住定住施策のより一層の推進を目指します。  
より効率的な事業推進を図るとともに、農的移住以外の新たな移住の切り口を加え、より一層の移住定住の促進を図るべく、本年4月の市の組織改編に伴い、移住定住施策に関する所管部署を統合し、経営企画部まちづくり推進課が所管することとなりました。  
▼情報発信力の強化を目指します。

支援センターでは、「いきいき帰農者セミナー」をはじめ、移住定住に関する情報、地域情報等についてホームページを通じて随時発信してまいりましたが、より能動的な情報発信を行うため、フェイスブックページを立ち上げました。

アプリをご利用の方は、「鴨川市ふるさと回帰支援センター」と検索いただくか、下のQRコードからアクセスし、フォローをお願いします。



鴨川市ふるさと回帰支援センター

# ふるさぽーと寄附金 (ふるさと納税)

本会では、ふるさと鴨川の更なる発展に寄与するため、「ふるさと納税」による積極的な支援を推奨しています。

## ▼平成30年度の実績

平成30年度の寄附金総額は、1億6007万2千円で、前年度の2億2695万4千円と比較して、6688万2千円の大幅な減額となりました。この主な要因としては、総務省の要請に基づき、寄附者に贈呈する返礼品の返礼割合を3割に引き下げたほか、地場産品ではないと判断された返礼品を取り止めたことなどによるものです。

▼寄附拡充に向けた改善点  
寄附者の多様なニーズに対応するため、「楽天」からの寄附受付サービスを開始したほか、コンビニエンスストア払いなどの納付方法の追加を予定しています。

▼ふるさと納税制度の見直し  
本年6月から、ふるさと納税の対象団体となるためには、総務大臣の指定を受けることが必要となりました。なお、鴨川市では、制度の趣旨を踏まえた適正な運用を行ってきたことが認められ、既に指定を受けています。

（この部分のテキストは上記の重複を避けるため省略されています）

## 掲載記事を募集します！

会員の皆様からの「鴨川ふるさと会だより」への掲載記事を募集しています。日頃感じていることや、ふるさと鴨川への想い、身の回りの出来事などを会員ページに掲載してみませんか。

今号では、平成28年度第1回ふるさとセミナーで講師をしていただいた高林直樹氏にご寄稿をいただきました。ありがとうございました。今後も、この「鴨川ふるさと会だより」を、会員同士の交流を深める場、報告の場などとして、どうぞお気軽にご利用ください。

